

各 位

トモニホールディングスグループの令和3年3月期第2四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和3年3月期第2四半期（令和2年4月1日～令和2年9月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田怪男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス
(1) 令和3年3月期第2四半期（令和2年4月1日～令和2年9月30日）連結業績

当第2四半期における損益状況は、経常収益は、国債等債券売却益及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比916百万円増加して35,597百万円となりました。経常費用は、営業経費が減少したものの、国債等債券売却損、株式等売却損及び与信関連費用が増加したこと等により、前年同期比1,802百万円増加して28,892百万円となりました。その結果、経常利益は前年同期比886百万円減少して6,704百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比1,468百万円減少して4,570百万円となりました。

当第2四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は前年度末比3,198億円増加して4兆3,129億円となり、純資産残高は前年度末比129億円増加して2,329億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は前年度末比2,435億円増加して3兆8,429億円、貸出金残高は前年度末比905億円増加して2兆9,972億円、有価証券残高は前年度末比223億円増加して6,643億円となりました。なお、銀行子会社単体合算の貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資の積極的な取り組み等により、前年度末比901億円増加して3兆66億円となり、第4次経営計画において掲げております目標（3兆円以上）を達成しております。

		令和3年3月期 第2四半期	前年同期比
損益	経常収益	35,597百万円	916百万円
	経常費用	28,892百万円	1,802百万円
	経常利益	6,704百万円	△886百万円
	親会社株主に帰属する中間純利益	4,570百万円	△1,468百万円
		令和3年3月期 第2四半期末	前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	43,129億円	3,198億円
	純資産	2,329億円	129億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	38,429億円	2,435億円
	貸出金	29,972億円	905億円
	有価証券	6,643億円	223億円
	自己資本比率（国内基準）	8.76%	0.24%

(2) 令和3年3月期通期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）連結業績予想

令和2年5月15日に公表しております令和3年3月期通期の連結業績予想（経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益）につきましては、以下のとおり修正しております。

①修正内容

（単位：百万円）

	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
前回発表予想（A）	11,150	7,300
今回修正予想（B）	12,350	8,150
増減額（B-A）	1,200	850
増減率（%）	10.7	11.6

②修正理由

当社銀行子会社2行において、第2四半期までの資金利益が当初予想を上回るとともに、経費が当初予想を下回ったこと等から、令和3年3月期第2四半期累計期間の連結業績は当初予想を上回る結果となりました。こうした第2四半期までの業績を踏まえて、令和3年3月期通期の連結業績予想を上方修正するものであります。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和3年3月期第2四半期（令和2年4月1日～令和2年9月30日）単体業績

【前年同期（決算ベース）比】

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、合併に伴い貸出金利息が増加したこと等により、前年同期比3,139百万円増加して16,639百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比3,095百万円増加して13,809百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比932百万円増加して4,883百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用は増加しましたが、前年同期比487百万円増加して4,319百万円となり、中間純利益は、前年同期比135百万円増加して2,919百万円となりました。

【前年同期（合算ベース）比】

経常収益は、有価証券利息配当金及び貸出金利息が減少したこと等により、前年同期比1,628百万円減少して16,639百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前年同期比420百万円減少して13,809百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比453百万円増加して4,883百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が増加したことから、前年同期比311百万円減少して4,319百万円となり、中間純利益は、前年同期比467百万円減少して2,919百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比1,209億円増加して2兆1,294億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比1,248億円増加して2兆2,462億円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比446億円増加して1兆6,747億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.03%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップを図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取引先企業への資金繰り支援を積極的に行った結果、前年度末比1,392百万円減少して21,623百万円、総与信に占める割合は1.27%となりました。

		令和3年3月期 第2四半期	前年同期 (決算ベース)比	前年同期 (合算ベース)比
損益	経常収益	16,639百万円	3,139百万円	△1,628百万円
	コア業務粗利益	13,809百万円	3,095百万円	△420百万円
	コア業務純益	4,883百万円	932百万円	453百万円
	経常利益	4,319百万円	487百万円	△311百万円
	中間純利益	2,919百万円	135百万円	△467百万円
	本業利益	2,654百万円	964百万円	518百万円
	与信関連費用	867百万円	757百万円	1,008百万円
		令和3年3月期 第2四半期末	前年度末比	
主要勘定残高・ 諸比率	総資産	23,860億円	1,476億円	
	預金等（譲渡性預金を含む）	21,294億円	1,209億円	
	総預り資産	22,462億円	1,248億円	
	貸出金	16,747億円	446億円	
	有価証券	3,834億円	211億円	
	自己資本比率（国内基準）	8.03%	0.22%	
不良債権	金融再生法開示債権額	21,623百万円	△1,392百万円	
	総与信に占める割合	1.27%	△0.12%	

(注) 各損益における前年同期比の計数は、決算ベースは令和2年3月期第2四半期における旧徳島銀行の計数と比較した計数を、合算ベースは令和2年3月期第2四半期における旧徳島銀行及び旧大正銀行の計数を単純合算したものと比較した計数を記載しております。

(2) 令和3年3月期通期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）単体業績予想

令和2年5月15日に公表しております令和3年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

(単位：百万円)

	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	7,400	5,150
今回修正予想 (B)	7,900	5,400
増減額 (B-A)	500	250
増減率 (%)	6.7	4.8

3. 香川銀行

(1) 令和3年3月期第2四半期（令和2年4月1日～令和2年9月30日）単体業績

当第2四半期の損益状況は、経常収益は、国債等債券売却益及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比2,195百万円増加して15,554百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比246百万円増加して11,075百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比563百万円増加して3,825百万円となりました。

経常利益は、株式等関係損益が増加したこと等により、前年同期比329百万円増加して2,811百万円となり、中間純利益は、前年同期比17百万円増加して2,131百万円となりました。

当第2四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比1,232億円増加して1兆7,185億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比1,267億円増加して1兆8,567億円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比455億円増加して1兆3,318億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.47%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップを図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取引先企業への資金繰り支援を積極的に行いましたが、前年度末比4,391百万円増加して30,385百万円、総与信に占める割合は2.24%となりました。

		令和3年3月期 第2四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	15,554百万円	2,195百万円
	コア業務粗利益	11,075百万円	246百万円
	コア業務純益	3,825百万円	563百万円
	経常利益	2,811百万円	329百万円
	中間純利益	2,131百万円	17百万円
	本業利益	1,720百万円	326百万円
	与信関連費用	303百万円	458百万円
		令和3年3月期 第2四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	19,261億円	1,712億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	17,185億円	1,232億円
	総預り資産	18,567億円	1,267億円
	貸出金	13,318億円	455億円
	有価証券	2,785億円	8億円
	自己資本比率（国内基準）	9.47%	0.26%
不良債権	金融再生法開示債権額	30,385百万円	4,391百万円
	総与信に占める割合	2.24%	0.25%

(2) 令和3年3月期通期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）単体業績予想

令和2年5月15日に公表しております令和3年3月期通期の単体業績予想（経常利益及び当期純利益）につきましては、第2四半期までの実績を踏まえ、以下のとおり修正しております。

（単位：百万円）

	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	4,100	2,600
今回修正予想（B）	4,650	3,000
増減額（B-A）	550	400
増減率（%）	13.4	15.3

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部

TEL：087-812-0102

株式会社徳島大正銀行 企画部

TEL：088-656-1118

株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-5132